

「ソーシャル・キャピタル」について

（「平成 14 年度ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」（内閣府調査報告）を参考に編集）

1 定義

ソーシャル・キャピタルという概念について、合意された定義はなく、複数の定義が存在している。

(1) アメリカの政治学者ロバート・パットナム

「人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴」

(2) OECD（経済開発協力機構）

「グループ内部またはグループ間での協力を容易にする共通の規範や価値観、理解を伴ったネットワーク」

(3) 世界銀行

「社会構造全般と対人関係にかかわる個人の行為を規定する規範全体」

2 ソーシャル・キャピタルの意義・効果

健康の増進、教育成果の向上、近隣の治安の向上、経済発展など有益な成果をもたらす、社会や個人の繁栄にとってその蓄積が重要である。

一方、負の側面を有する可能性もあるとされ、強力な結合型ソーシャルキャピタルに内在する排他性の危険性や、社会の中での偏在（※）の可能性がある。

※ ソーシャルキャピタルの蓄積があるところにはさらに集中し、ないところには蓄積せず、結果として社会階層の固定化をもたらす。